【附録】　和算用字和解

和算書に見える和算用語凡例集を抜粋してみた．〈用字凡例〉や〈用字和解〉といったタイトルで書かれているものが多い．漢籍では『算法統宗』に見える．

	書名	年	著者	用語説明部分のタイトル
1	算元記	1657	藤岡茂元	用訓（じくん）
2	算俎	1663	村松茂清	用字
3	古今算法記	1671	沢口一之	算盤異名
4	数学乗除往来	1674	池田昌意	乗除の名の字
5	九数算法附録	未詳	嶋田貞継 (1607〜1680)	用字凡例
6	和漢算法	1695	宮城清行	用字凡例
7	和解図式 算法天元指南	1698	佐藤茂春	用字凡例（ようじ はんれい）
8	大成算経	1683〜1710	関孝和・建部賢弘	用字例
9	古今増補 算学重宝記改成	1715		算盤の異名（そろばん いみやう）
10	小学九数名義諺解	1720	沼田敬忠	附術用字凡例
11	算法指南車	1769	小川愛道	用字註解
12	秘術改撰 算学重宝記 (天明 7 年版)	1787		算盤の異名（そろばん いめう）
13	算法知恵海大全	1793		算法名之事（さんほふ なのこと）
14	改正天元指南	1795	藤田貞資	用字和解（ようじ わげ）
15	大増補改算記綱目	1795		用字凡例
16	算学稽古大全	1808	松岡能一	用字凡例
17	算法点竄指南録	1815	阪部廣胖	用字和解（やうじ わげ）
18	廣用算法大全	1825	藤原徳風	用字凡例
19	算法新書	1830	千葉胤秀	用字凡例
20	算法身之加減	1830	渡部一	算学用字
21	算法稽古図會大成	1831		算法用字（さんほう ようじ）
22	算法大全指南車	1832		用字註解（ようじちうかい）
23	算学提要	1833	竺眞應	用字凡例
24	算学速成	1836	武田復	用字（ようじ）
25	算法智恵袋	1844	序：吉田光由	算法名目の註釈（さんほう みやうもく ちうしやく）
26	眞元算法	1845	武田眞元	算法の換名（さんほう かえな）

27	算法摘要大全	1846	武田眞元	算法換名
28	算法稽古宝	1846		算法用字
29	算法図解大全	1848		算法用字
30	算法開蘊	1848	剣持章行	用字
31	多門直入 算法重宝記	1851	友鳴松旭	算法用字
32	秘術改撰 算学重宝記 (嘉永 4 年版)	1851		算法用字
33	啓廸算法指南大成	1855	小野光衛門以正	用字凡例
34	算学備要大成	1856	佐々木定保	用字格
35	秘傳捷徑 袖珍算法	1797	山田昌信	用字の例
36	算法早まなび	1847	福田復	算法用字
37	算法便覧	1826	武田眞元	算法換名
38	算法統宗	1593	程大位	用字凡例

1 算元記

帰除	とはわる事也．のぞく共云．又自除自帰と云はそろはんの左右同数にて割をいふ．
乗因	とはかける事也．のする共云．又相因とは掛合を云．再因二乗再乗と云は二度かける事を云．
自因自乗	とはそろはんのつぶ左右同数にてかけ合を云．又再自因再自乗とは同数二度かけるを云．
商	とはわりあらはす数をいふ．又くらひを見出すこと也．
実	とはそろはんにて右の方也．是を正に置共或は下に直す共云．
法	とは同左の方也．是を目安に用ゆ共或は上に立るとも云．
折半	とは長短合て二つにわるを云．
減去	とはへらしさることをいふ．
積	とは何にても坪数を云．
不尽	とは何にても残る数を云．
令	とはそろはんのけたあいとぶことをいふ．

2 算俎

因乗	かくる事なり．略して一字書ても同し．
帰除	わる心なり．略して一字をもかくなり．

相因(さうゐん)	かくる事なり．相乗(さうしよう)も同し．
自因(じゐん)	同数(おなしかず)をかけあわする事なり．自乗(じじよう)も同し．
再自因(さいじゐん)	同数(おなしかず)を二度かくる事．再自乗(さいじじよう)も同し．
冪(まく)	自因(じゐん)の積(せき)をいふなり．
和(くは)	まぜあわするといふことなり．
併(へい)	あわするといふこころなり．
減去(げんきよ)	へらしすつる也．引落(ひきおと)すといふに同し．
止餘(しよ)	とどまりあまる也．残餘(ざんよ)止残(しざん)なとも同し．
不盡(ふじん)	わりあまりのはしたをいふ．
折半(せつはん)	二つにわけて其一つの事なり．半(はん)と計(はかり)も用ゆ．
零(れい)	一位へたてたる也．略してかんむりなしにもかく也．令令は二けたきるゝをいふ．
弾(たん)	是も零(れい)と同し．
径(けい)	さしわたし也．
方	たてよこ同寸をいふ．
立方	たて横高同寸をいふ．さいのことし．

3 古今算法記　　13 算法知恵海大全

歸(き)	と云は割(わる)事なり．
除(ちよ)	と云も割(わる)事なり．
乗(しやう)	と云は掛(かけ)る事なり．
因(ゐん)	と云も掛(かけ)る事なり．
相乗(あいしやう)	と云も掛(かけ)る事也．
自乗(じじやう)	と云は同数を掛合る事也．
自因(じいん)	と云も同事なり．
自レ之(これをじする)	と云も同事なり．
再自乗(さいじじやう)	と云は同数を二度かけ合する事なり．
再自因(さいじいん)	と云も同事なり．
再自レ之(ふたたびこれをじする)	と云も同事也．
法(ほう)	とは割たりかけたりする時見合する左のかずをいふなり．
目安(めやす)	と云も同事也．
実(じつ)	と云は割へき数の右にあるをいふなり．

商(しやう)	と云は割あらわするかずをいふ也.
折半(せつはん)	と云は弐つに割事也.
半之(これをなかばにする)	と云も同事也.
和(くは)	と云はたつよこ合る事也.
相併(あいならふ)	と云も同事也.
加入(かにう)	と云はくわゆる事也.
積(せき)	と云はたつ横(よこ)かけあわするをいふ也.
冪(べき)	と云は同数をかけ合せたる数をいふ也.
零(れい)	と云は一桁間あくを云. あるいは千十といふがことし. 百の字落るゆへ千零十といふなり.
不尽(ふじん)	と云はわり残る数をいふ也.

4 数学乗除往来

除(のぞく) (のける)	これはたとえは馬五疋を五人にのけるといふ五人にわたす事なり.
乗(のる)(じやうする)	五寸と六寸と乗してもなかの坪卅坪有. これを五六卅といふのごとくなり.
因(ちなむ) (いん)	これも乗するとおなじ事也.
商(しやう)	これは見たてゝあらはす数なり. 算木のばんのうへにあらはるゝ也.
実(じつ)	これは商の下にをく数の名なり. 算ばんのかきつけのことく也.
法(ほう)	これは実の下にをく数の名なり. 算ばんにあり.
相因(さういん)・自因(じいん)・相乗・自乗	これみなそろばんにてかけあわするといふ. たとへは五と七とよびて五七の卅五. たとへば七と七とよびて七々の四十九. みなおなし事なり.
除約(のぞくつゝむる)	これみなそろばんにてわるといふやうのことなり.
減去(げんさる)	これみなそろばんにて引といふやうの事なり.
正(しやう)	これはあかき算木のなゝり. 陽の名也.
負(ふ)	これはくろき算木の名なり. 陰の名也.
廉(れん)	これは法の下にあるなり. 開平方にて天元の一をいつも廉といふ也.

5 九数算法附録

假如	假者假借之義. 借辭以述其事. 如者然也
原數	本數也
積數	積者聚也. 言數積聚也. 即本實數也.

虛數	非本實數．言假數積聚也
該數	該者兼備也．與凡數義同．
總數	總者聚束也．又統也．與該義同．
變數	變者更也．又易也．言於因歸乘除之間其數變易也．
通計	首末全曰．通計者會也．又算也．言者會通其數也．
零	落也．數虛也．如言一百零一是也．
并合	兩數相合也．
折半	減去一半也．
減去	減者耗也．去者除也．減却除却義並同．
止餘	止者留也．餘者殘賸也．言者以少減多而數殘餘也．
不盡	歸除實數不終也．
若干	數未定之辭幾許幾多義並同．
在位	使積數在實位也．
自因	兩數共單位，而數亦齊矣．
自乘	兩數共多位，而數亦齊牟．
相因	兩數共單位，而數不齊彼與此相呼也．
相乘	兩數共多位，而數不齊彼與此相呼也．
自歸	不分單位多位兩數共齊牟．
相歸	不分單位多位兩數各不齊牟．
逢	遇也．又除也．遇有數而歸之辭也．
添	益也．益數以歸之辭也．
進	移上前一位也．
還原	復初數也．
約	纏束也．存約數之義也．
方	四方也．又謂圓之對也．
圓	周也．又謂方之對也．
直	長也．
規	所以為圓之器也．
矩	所以為方之器也．即今曲尺也．
周	外圍也．
經	周中之弦也．又縱也

高	立起也.
深	陷也.
廣	横闊也.
闊	横廣也.
縱	直長也．又謂横之對也.
横	廣闊也．又謂縱之對也.
斜	兩隅相去也．又不正也.
廉	方直也.
隅	曲角也.
長	直也．又謂短之對也.
短	長之對也.
因乗義	因者生也．謂九九陞積之義也．單位曰因多位曰因乗通而言之曰乗也．皆從末位起呼九九相生之數次第乗之也.
歸除義	歸者會也．謂會萬分之數而歸於一也．除者減也．謂約存身數而減其餘也．單位曰歸多位曰歸除通而言之曰除也．皆從首位而起其法之首位呼歸餘位呼除故曰歸除.
商實法義	置右者謂之實．置左者謂之法．於其因歸乗除之間章者謂之商．實者積數之本，法者因歸乗除之用，商者因歸乗除之章數，所謂物成熟可章度也．假如有一歳三百六十五度四分度之一若知章歳分數，以三百六十五度四分度之一為實，以統法八千四百分為法，用因乗則得三百零六萬八千一百分是商也．又有章歳三百零六萬八千一百分，若知晝夜分数，以三百零六萬八千一百分為實，以三百六十五度四分度之一為法，用歸除則得統法八千四百分是商也.

6 和漢算法

商(しやう)	とは割(わり)あらわすを云.
実(じつ)	とは法にて割(わる)べき数(かす)を云.
法(ほう)	とは割懸(わりかけ)共に見合る数を云．目安といふもの也.
帰(き)	とは一桁(けた)の法にて割(わる)を云.
帰除(きぢよ)	とは二桁(けた)以上の法にて割(わる)を云.
因(ゐん)	とは一桁(けた)の法を懸(かける)を云.
乗(じやう)	とは二桁以上の法を掛(かける)をいふ.
相因(さうゐん)・相乗(さうじやう)	共にかけ合るを云.
自因(じゐん)	とは同数(どうすう)(おなじかす)一桁(けた)かけ合を云.
自乗(じじやう)	とは同数二桁(けた)以上かけ合るをいふ．自レ之とも云.

再自因・再自乗	共に同数二度かけあわするを云.
三自因・三自乗	共同数三度かけあわするをいふ. 三自乗以上餘は倣レ之に
折半も半レ之	と云も皆二つに割を云.
和と云も相併	と云も皆幾数にても合す類を云也.
加入	とは増添の類をいふ也.
減	とは引をいふなり.
差	とは多少にして同数ならざるを云也.
倍	とは本ある数を一ばいするを云也.
冪	とは同数懸合たるを云. 又畧して巾とも書也.
零	とは一桁間のあくを云.
不尽	とはわりのこる数を云也.
還源	とは初の術にかへす術を云也.

7 算法天元指南

商	割あらわす数を云なり.
実	法にて割べき数を云なり.
法	割掛ともに見合する数を云なり.
帰	一桁の法にて割ことなり.
除	二桁以上の法にて割ことなり.
帰除	同レ上.
因	一桁の法を掛ることなり.
乗	二桁以上の法を掛ることなり.
因乗	同レ上.
相因	一桁掛合することなり.
相乗	二桁以上掛合することなり.
自因	同数一桁掛合することなり.
自乗	同数二桁以上掛合することなり.
自レ之	同数掛合することなり.
再自因	一桁の同数二度掛合することなり.
再自乗	同数二桁以上二度掛合することなり.
三自因	一桁の同数三度掛合することなり.

三自乗（さんじじやう）	同数二桁以上三度掛合することなり.
折半（せつはん）	二つに割ことなり.
半レ之（なかばすこれを）	同レ上.
和（くは）	相合することなり.
併（へい）	同レ上.
加（か）	増そゆることなり.
相加（さうか）	同レ上.
加入（かにふ）	同レ上.
併入（ならべいる）	同レ上.
減（げん）	引ことなり.
相減（あいげん）	同レ上.
差（しや）	多少のちがいのことなり.
倍（ばい）	一倍にすることなり.
三レ之（みたびすこれを）	三を因ずることなり.
四レ之（よたびすこれを）	四を因ずることなり.
上位（じやうい）	算盤の上又左の方を云なり.
下位（かい）	算盤の下又右の方を云なり.
首位（しゆい）	左の方を云なり.
尾位（びい）	右の方を云なり.
身（み）	掛割のとき見合する位を云なり.
本位（ほんい）	法位に對して呼合する位を云なり.
定位（ぢやうい）	位の究まり定まるを云なり.
列（れつす）	置備ふることなり.
右行（うぎやう）	右の方に列したるを云なり.
左行（さぎやう）	左の方に列したるを云なり.
進（すすむ）	上へ上ることなり.
退（しりぞく）	下へ下ることなり.
階（かい）	算盤の間ことを云也. 又桁と云がごとし.
零（れい）	一桁間のとぶことなり.
不盡（ふじん）	割のこる数を云なり.
直（ちよく）	縦横の形ちを云なり.

斜(しや)	直ならざる形ちを云なり.
積(せき)	何にても形ちの中の歩数を云也.
冪(べき)	同数を掛合たる数を云なり. 又略して巾(べき)とも書なり.
見商数(けんしやうのかず)	商にあらはれたる数を云也.
適等(てきとう)	そひとしく同じきことを云なり.
就(つく)レ分(ぶんに)	分は分母子の分なり. 其分母に就き分子に就と云義也.
寄(よせ)レ左(さに)	左の方へよせ置と云ことなり.
寄(よせ)レ位(くらいに)・寄(よせ)ニ甲位(かういに)一・寄(よする)ニ乙位(おついに)一の類(たぐひ)は重(かさね)て呼出(よびいだ)すべき為(ため)かりに名付(なづく)る也.	

8 大成算経

今	是發題語之端也. 凡設正題下全問而其體真者皆首註此字而又結其尾之辭也.
假如	與前同辭也. 但於篇中設假問而不真者皆用此辭而却不結最末之語也.
云	於題中言之者定用此字也. 凡如新言事別發語之類初添只字次添又字末添復字而註之, 但所言雖多其文前後相通則各不書之. 若言答数及諸術者皆用曰字也.
若干	是数未定辭故畧題中及答数而不書之, 則各用此二字分註于諸云辭與得答之旁也.
幾何	與前同辭而定為題末之結語也. 是故設真者以之附于問数之下或據題又添註各字于上而全其文若假題者畧而不書之
法曰	是術首之辭乃所為本自定而為準者皆註如此而為其枝之規模也.
術曰	與前同辭也. 但其技本無定式而臨機施之者皆用此文而別應変之義也.
草曰	此辭或術前先得数而後施之或別段而再演其理者皆非真之所為故各如此書之.
解曰	是又演段之首辭也.
列	置也. 術中以假諸数施之者用此字.
置	與前同辭. 用真数而成技則如此書之若張上下者上註副字.
加入	合一物雙位之辞大率添入字或合両三物則有夾與及両字而用此辭者矣.
相并	或作併是合衆位之辞先書諸位相乗之名目而後註此両字于總位之下.
列并	合二位三位者約而言之則先如此書而後註諸位之號又於位中間挾註與及両宇也. 但二次巳上相乗之名, 混雑者不用此文.
内減	両数先置, 多者於其中減少而如此註之.
以減	先置少者用其数減多而如此註之.
自之	本其號具者與并数減餘之属未號位者各一次乗則大率畧乗字而不書之.
自乗	位已有號者宜言乗字若二次已上則又上添再三等之数而註之.

相乗	本有號者與寄諸位者及雖未號以總計餘数乗者皆添相字.
乗之	或就諸分或乗無名数者各一十已上則定不言相字.
幾之	以分数一十巳下因之者省因乗両字各不註之.
共	謂加并之總故大率註于得数之上或依文有省之是以不必為例也.
餘	是相較之残也．定書于減数之下而不添得字也.
為	是数已定之辞於術中得諸数而各言其名目則定皆註如比.
得	與前同辞．但於術中求之数不言其號則如此書而分註数式于其下畧式而不載則添註数之字若積二次巳上之技者唯於最末可註之又求答数者毎言諸名悉書此字.
箇	或作个．是諸数之通稱乃本自具数與逢加減開除之技而得者各帯分数則皆據此曰若于箇也.
段	稱與前同．但寄賭位者與逢因乗之技而求者各帯分数則皆用此號曰若干段也,
零	是数位虧之稱故随其空位重而書之如註一千零零一者是也．或画小圏而補其虧者亦同.
單	数中位缺而尾一箇位則不拘缺位之多少皆書此一字如註一萬單一者是也.
寄位	術中二位則以先寄者註如此或書寄左衆位則冒枝幹宿卦之名而各號某位也.
寄左	是常對于消数而寄之辭故術中一位與三位巳上皆以最末寄者定如此註之.
再寄	有両位則皆以對而寄者如此書之.
而一	是歸除之辞也．得自然式者與作法實而求之者皆上添實如法三字而註此文.
去之	止法数已下而用者定書此文故上添満某二字而註之.
約之	以諸分與無名数除之者皆如此書而不必用除字.
除之	是両技通用之辞也．凡歸除唯作實不言法而求之則皆曰以某除之開方作諸級数而求之則随其乗数皆曰開幾乗方除之也.
開之	是開出之辞乃得自然式而求之者皆随乗数曰某方開之不添除字.
推前術	臨求答諸数或其品最多或所為文繁者各畧其技而註此辞也.
合問	是術尾之辭故所施全則註得諸答数之後而結上文若仮則唯書也之一字.

9 古今増補 **算学重宝記改成**　　12 秘術改撰 **算学重宝記** (天明 7 年版)

帰(き)	といふはわる事也.
因(いん)	といふはかける事也.
除(ぢよ)	といふはわる事也.
乗(じやう)	といふはかける事也.
自乗(じじやう)	といふは同数をかけ合する事也.
相乗(あいじやう)	といふはかける事也.
自因(じいん)	と云は自乗(じじやう)と同.

自レ之（これをじする）	といふも同事也.
再自乗（さいじじやう）	とは同数を二度かけ合する也.
再自因（さいじゐん）	といふも同事也.
再自レ之（ふたたびこれをじす）	といふも同事也.
法（ほう）	とは割たりかけたりする時見合する左の数を云.
目安（めやす）	といふも同じ事也.
実（じつ）	といふは割べき数の右に有をいふ也.
商（しやう）	といふはわりあらはするかずをいふなり.
折半（せつぱん）	とは二つに割事也.
半レ之（これをなかばにする）	といふも同事也.
和（くは）	とは立横合する也.
相併（あいならぶ）	といふも同事也.
加入（かにう）	といふはくはゆる事也.
積（せき）	といふはたつよこかけ合する事也.
冪（べき）	といふは同数をかけ合せたるかずをいふ也.
零（れい）	といふは一けた間あくをいふなり．たとへば千十といふごとく百のけた飛故に千令十といふなり.
不尽（ふじん）	といふはわりのこるかずをいふなり.
	右のこえよくゝゝそらんじ給ふべし

10 小学九数名義諺解

術の中にて字に注すること煩しきゆへこゝに集めて注す．附術と見合すべし.

商	とは割あらわれたる数を云う．俗これをあたりと云.
実	とは法にて割るべき数を云う．俗これをわりきと云.
法	とは俗に云目安也．わるにもかけるにも見合する目当の数也.
乗	とは俗に云かけると云こと也.
除	とは俗に云割ると云こと也.
帰除	とは俗に云八算見一にてつ割こと也．分て云へば帰とは八算にて割ること也．除とは見一にて割ること也．通して云へば割を云.
因乗	とは俗に云八算見一の掛算也．分て云へば因は八算の掛算，乗は見一の掛算也．ゆへに因は一桁の掛算也．乗は二桁以上の掛算也．通して云へば只掛るを云也.
如法而一	とは目安にて割と云こと也.

相乗	とは俗に云掛合すること也．但二桁以上の数也．
自乗	とは同数を掛合すること也．但二桁以上の数也．
自因	とは同数にて一桁なるを掛合すること也．
再自乗	とは同数を二度掛合すること也．　再自因も同じ．
三自乗	とは同数を三度掛合すること也．　四乗五乗以上皆倣之．
折半之	とは二つに割て半分にすること也，　半之も同じ．
和	とは俗に云置き合すること也．　相併とも併之も皆同じ．
減	とは俗に云引と云こと也．
積	とは掛合たる数を云．
零	とは桁の間のあくこと也．
零	とは俗に云坪ということ也．
冪	とは同数を掛合たる数也．
不尽	とは割残数を云．

11 算法指南車　22 算法大全指南車

商(しやう)	とは割(わり)あらわすを云．
実(じつ)	とは法にて割べき数を云．
法(ほう)	とは割かけともに見合るかずを云．目安といふ物也．
帰(き)	とは一桁の法にて割を云．
帰除(きぢよ)	とは二桁以上の法にてわるを云．
因(ゐん)	とは一桁の法をかけるを云．
乗(じやう)	とは二桁以上の法をかけるをいふ．
相因(さうゐん)・相乗(さうじやう)	共にかけ合るを云．
自因(じゐん)	とは同数一桁かけ合を云．
自乗(じじやう)	とは同数二桁以上かけ合るを云．自レ之とも云．
再自因(さいじいん)・再自乗(さいじじやう)	共に同数二度かけ合するを云．
三自因(じいん)・三自乗	とも同数三度かけ合するを云．三自乗以上餘(よ)は倣(ならへ)レ之ニ
折半(せつはん)も半レ之	と云もみな二つにわるをいふ．
和(くは)と云も相併(あいならぶ)	と云も皆幾(いく)数にても合す類をいふ也．
加入(かにう)	とは増添(ましそゆ)るの類を云也．
減(げんずる)	とは引(ひく)をいふなり．

差(たがひ)	とは多少にして同数ならざるを云也.
倍(ばい)	とは本在数(もとかず)を一ばいするを云也.
冪(べき)	とは同数を懸合たるを云. 又畧して巾(べき)ともかくなり.
零(れい)	とは一桁間のあくを云.
不尽(ふじん)	とは割のこる数を云.
還源(くはんげん)	とは初(はじめ)の術(じゆつ)にかへす術を云也.

14 改正天元指南

凡国字を以て本字に附するものは初学の為にすることなれは其詳音を不レ用唯世俗の語に従ふ.

商(しやう)	割あらわす数を云なり.
実(じつ)	法にて割べき数を云なり.
法(はふ)	掛割ともに見合する数を云なり.
帰(き)	一桁の法にて割ことなり.
除(ぢよ)	二桁以上の法にて割ことなり.
帰除(きぢよ)	同レ上.
因(いん)	一桁の法を掛ることなり.
相因(さういん)	同レ上.
乗(じやう)	二桁以上の法を掛ることなり.
相乗(さうじやう)	同レ上.
因乗(いんじやう)	幾桁にも相通して掛ることを云なり
自因(じいん)	一桁のもの同数を掛合することなり.
自乗(じじやう)	二桁以上のもの同数掛合することなり.
自レ之(じすこれを)	同数掛合することなり.
再自因(さいじいん)	一桁の同数二度掛合することなり.
再自乗(さいじじやう)	二桁以上の同数二度掛合することなり.
三自因(さんじいん)	一桁の同数を三度掛合することなり.
三自乗(さんじじやう)	二桁以上の同数三度掛合することなり.
折半(せつはん)	二つに割ことなり.
半レ之(はんすこれを)	同レ上.
和(くは)	相合することなり.
併(ならぶ)	同レ上.

加(くわう)	増そゆることなり.
相加(さうか)	同レ上.
加入(かにう)	同レ前.
併入(へいにう)	二品の数を合せ加ふることなり.
減(げん)	引ことなり.
内減(うちげん)	多数の内彼の数を減ずることなり.
以減(もつてげんず)	彼の数の内此数を減ずることなり.
相減(さうげん)	多数の内少数を減ずることなり.
差(さ)	多少のちがいのことなり.
倍(ばい)	二を掛ることなり.
三レ之(みたびすこれを)	三を掛ることなり.
四レ之(よたびすこれを)	四を掛ることなり.
上位(じやうい)	算盤の左の方を云なり.
下位(かい)	算盤の右の方を云なり.
首位(しゆい)	幾桁もつゞきたる数の其始の一桁を云なり.
尾位(びい)	幾桁もつゞきたる数の其終りの一桁を云なり.
本位(ほんい)	法に對して呼合する位を云なり.
身(み)	同レ上.
定位(ぢやうい)	位を定むることなり.
列(れつす)	置備ふることなり.
右行(うぎやう)	右の方に列したるを云なり.
左行(さぎやう)	左の方に列したるを云なり.
進(すすむ)	上へ上ることなり.
退(しりぞく)	下へ下ることなり.
級(きう)	算盤の畫方の上下に重ることを云なり.
罫(くわい)	算盤畫方の横に並ぶことを云なり.
零(れい)	一桁間のとぶことなり.
不盡(ふじん)	割つきざる数を云なり.
直(ちよく)	縦横の形を云なり.
斜(しや)	直ならざる形ち或は矩合せさる形ちを云なり.
積(せき)	何にても形ちの中の歩数を云也.

冪	同数掛合せたる数を云なり．又略して巾とも書すなり．
見商数	商にあらはれたる数を云也．
適等	其理同じきものを云なり．
就レ分	分は分母子の分なり．其分母に就き分子に就と云義なり．
寄レ左	左の方へよせ置と云ことなり．

寄レ位・寄二甲位一・寄二乙位一或名レ極 此類は重て呼出すべき為に名付け置く処なり．

15 大増補改算記綱目

算法掛割方術のことばを知る

商	とは割あらわすをいふ也．
実	とは法にて割べき数をいふ．
法	とは割懸共見合る数を云．目安といふもの也．
帰	とは一けたの法にて割を云．
帰除	とは二桁以上の法にて割を云．
因	とは一桁の法をかけるを云．
乗	とは二桁以上の法をかけるを云．
相因・相乗	ともにかけ合るを云．
自因	とは同数一桁かけ合るを云．
自乗	とは同数二桁以上かけ合るを云．自レ之ともいふ．
再自因・再自乗	共に同数二度かけあわするを云．
三自因・三自乗	共に同数三度かけあわするをいふ．三自乗以上の餘は倣レ之
折半も半レ之	と云も皆二つに割を云．
和といふも相併	と云も皆幾数にても合す類を云也．
加入	とは増添るの類をいふ也．
減ずる	とは引をいふなり．
差	とは多少にて同数ならざるをいふ也．
倍	とは本ある数を一ばいするを云也．
冪	とは同数を掛合たるを云．又畧して巾ともかくなり．
零	とは一桁間のなくをいふ．
不尽	とはわりのこる数を云なり．
還源	とは初の術にかへす術を云也．

16 算学稽古大全

法	割懸ともに見合す数なり．又目安ともいふなり．
実	法を以て割かけすべき数の事なり．
商	割あらわしたる数の事なり．
帰	法一桁にて割ことなり．
帰除	法二桁以上にて割事也．又除レ之而一も同事なり．
因	法一桁にてかける事也．又因はかゝりてある事なり．
乗	法二桁以上にても懸る事也．又相乗相因同じ事なり．
自乗	同数かけ合す事也．又自之もおなじ事なり．
再自乗	同数二度懸あはす事也．
三自乗	同数三度かけ合す事なり．逐て此のごとし．
折半	二つに割事也．又半レ之もおなじ事なり．
和	幾数も合す事也．又相併も同じ事也．
加入	増添の類なり．加もおなじ事なり．
減	引ことなり．
差	多少にして同数ならず過不及の事也．又較も同じ事也．
止餘	多き中にて少き数を引残り也．又餘も同じ事なり．
倍レ之	原ある数ともに二つ合すことなり．
三レ之	原ある数ともに三つ合すことなり．逐て此のごとし．
冪	同数かけ合せたる数の事也．又円・巾もおなじ事也．
積	多少懸合せたる数の事なり．
零	一桁間あく事なり．令もおなじ．
単	たとへば一万零零零一を一万単一と書なり．
不尽	割残る数なり．又不満有奇も同じ事なり．
為	先かりに某にして後に定る意なり．
内減	多き中にて少きを引事なり．
以減	少きを以て多きうちにて引事なり．
今有	問の発端に用ゆる字なり．仮如もおなじ事なり．
若干	いまだ数を定らざるをいふなり．問の句中に用ゆる字也．
幾何	右同段なり．問の末の結に用ゆる字也．
箇	数の結に用ゆる字なり．たとへば二箇三箇のごとし．
段	数の上に某の名を加へ結に用ゆる字也．

列	をく事なり．又置もおなじ事なり．
約レ之	無レ名の数を省くことなり．
去レ之	法の数より以上を棄る事也．又法の数より以下を棄るも同じ．
合レ問	術の末の結に用ゆる字なり．

17 算法点竄指南録

此書中に用ゆる字のみに限らず都て算に多くとりあつかふ字を出し俗語を用ひて字義の大抵を釈す．

商	割あらはす数をいふ．
実	ほうにてわるべき数をいふ．
法	かけわり共に見あわせる数を云　俗に目安といふ．
帰或皈	一けたのほうにてわる事をいふ．
除	けたかずにかかはらずわる事をいふ．
帰除	上におなじ．
約	是もわる事をいふ．
因	一けたの法をかくるをいふ．
相因	ひとけたの法をかけるをいふ．
乗	けたの数にかかはらずかけるを云．
相乗	是もけたかずにかかはらずかけあわせる事をいふ．
因乗	上におなじ．
連乗	一度かけ合せたる所へまた一度も二度も別の物をかけるをいふ．
自因	一けたの物同数をかけあわせるをいふ．
自乗	けた数にかかわらず同数をかけあわせる事をいふ．
自之	上におなじ．
再自因	一けたの同数を二度かけ合ることをいふ．
再自乗	けた数にかかはらず同数を二度かけあわせるをいふ．
三自因	一けたの同数を三度かけあわせるをいふ．
三自乗	けた数にかかはらず同数を三度かけあわせるをいふ．
折半	ふたつにわるをいふ．
半レ之	上におなじ．
実如法而一	法にて実をわる事をいふ．
倍レ之	二をかける事をいふ．

三レ之(みたびすこれを)	三をかける事をいふ.
四レ之(よたびす)	四をかける事をいふ.
一段(いちだん) 二段(にだん) 三段(さんだん)	一ツ二ツ三ツといふがごとし.
一次(いちじ) 二次(にじ) 三次(さんじ)	一度二度三度といふがごとし.
一箇(いつこ) 二箇(にこ) 三箇(さんこ)	一ツ二ツ三ツといふにおなじ.
和(くは)	あひあわせる事をいふ.
併(へい)	二数あひあわせる事をいふ.
加(か)	ましそゆる事をいふ.
相加(さうか)	是もましそゆる事也.
加入(かにう)	上におなじ.
截(さい)	きる事をいふ.
分(ぶん)	わくる事をいふ.
減(げん)	ひく事をいふ.
内減(うちげん)	此数の内彼数を引事をいふ.　【参考】a 内減 $b = a - b$
以減(もつてげんず)	彼数の内此数を引事をいふ.　【参考】a 以減 $b = b - a$
相減(さうげん)	漢人は少を以多を引事に用ゆ．今我邦の人はいつれにても多き内少を引に用ふ.
差(たがひ)	多少不同の数をいふ.
較(こう)	相減ずる余の数をいふ.
同矩(どうのり)	彼も是も同じのりといふ事也.
互(ご)	たがひに也．たとえへは互乗とあるは右の上を左の下にかけ，左の上にあるを右の下にかくるを云.
遞(てい)	たがひ也．たとえへは等遞差といふは甲と乙の差も乙と丙の差も同じことをいふ.
原(はじめ)	初の数也.
開方(かいほう)	自乗したる数を原に還すなり．又平方以上の通称也.
開立(かいりう)	再自乗したる数を原に還す也.
甲商(こうしやう)	甲数を平方にひらきたるを云．乙商丙商の類みなこれにならへ.
二箇商(にかしやう)	二ヶを平方にひらきたるを云．三ヶ商五ヶ商の類みな是にならへ.
見商数(けんしやうすう)	商にあらはれたる数をいふ.
積(せき)	俗に坪数と云．かけてなる数をいふ○田畑屋敷箔布の類の坪を平積といふ．箱の坪材木銅鉄の類の坪を立積といふ．○通じて積とはかりにいふなり.

冪(べき)	同数をかけ合せたる数をいふ○二度かけ合せたる数を再乗巾と云．三度かけ合せたる数を三乗巾といふ○四乗巾以上是にならへ．
覓積(べきせき)	球の皮の坪をいふ．
上位(じやうゐ)	上のかたをいふ．
下位(かゐ)	下のかたを云．
首位(しゆゐ)	いく位もつづきたる其始をいふ．
尾位(びゐ)	幾位もつづきたる其終りをいふ．
本位(ほんゐ)	法にたひしてよびあわする位をいふ．
身(み)	上におなじ．
右行(うこう)	右のかたに列したるをいふ．
左行(さこう)	左のかたに列したるをいふ．
進(すすむ)	上へあげる事をいふ．
退(しりぞく)	下へさがる事をいふ．
階(かい)	さんばんの畫方の上下に重るをいふ．
級(きう)	上におなじ．
罫(くわい) (けい)	さんばんの畫方の横にならぶ事をいふ．
零(れい)	一けた間のとぶをいふ．
空(くう)	もののなきをいふ．
就レ分(つくぶんに)	分は分母子の分也．其分母につく分子につくといふ事也．
不盡(ふじん)	わりつくさざる数をいふ．
有奇(ゆふき)	上におなじ．
適等(てきとう)	その理おなじき物をいふ．
矩合(くごう)	かねあひ也．みだりにゆがまず．大工の曲尺のごとく方面の角の如くなるを云．
奇数(きすう)	一三五七九かくの如く二を増数をいふ．俗に半の数といふ．
偶数(ぐうすう)	二四六八十かくの如く二を増数をいふ．俗に調の数といふ．
直(ちよく)	ゆがまずすくなるかたちを云．
斜(しや)	すぐならざるかたち，あるひは矩合せざるかたちをいふ．
省(しやう)	はぶく也．たとへは，三ツある物は一ツ二ツにもし，四ツある物は二ツ三ツにもするを云．
遍(へん)	あまねく也．のこりなくと云がごとし．
変(へんず)	あらためかへるをいふ．
化(くわす)	上におなじ．

括	二位三位ある物を一位にするをいふ.
解	上の如く括りたる物を元のごとく別〻に分るをいふ.
寄レ左。寄二甲位一。寄二乙位一。寄レ位。名天。名地。	此類は重ねてよび出すべき為になづけおくなり
定甲。定乙。	此類定の字の出は，初に甲となづけたる物を括りなどして，又甲とのみいふ時は後呼出すときいつれの甲なるか忘れぬゆへに定の字をくはふなり.

18 廣用算法大全

列・置	是はいづれも思ふ数を算盤の桁にならべ置くことなり.
実	とは何にても法をもって或は掛け或割るべき数のことなり.
法	とは割算掛算ともに見合すべき左の数をいふ．俗に目安といふなり.
商・見商・得商	是はいづれも割あらわす数又は開きあらわしたる数をいふなり.
歸	とは一桁の法にて割るをいふ．歸レ之とも書く.
除・除レ之・歸除	是は何も二桁以上の法にて割るをいふなり．又如二何〻一而一とも書く．同義なり.
因(よる)．相因	是は何も一桁の法を掛るをいふなり．又因は既に掛りてある数のことなり.
乗・相乗・乗レ之	是はいづれも二桁以上の法をかけるをいふなり.
自因	とは一桁にて同数のものを左右に置かけ合すをいふなり.
自乗・自レ之	是はいづれも二桁以上の同数のものをかけ合すをいふなり.
再自乗・再自レ之	是はいづれも右に同く同数のものを二度かけ合すをいふなり.
三自乗・三自レ之	是も右とおなじく同数のものを三度掛合すなり．此上幾自乗に至るもおなじ意なり.
折半・半レ之	是はいづれも二つに割るをいふなり.
和・相併	是は幾数も合すをいふなり．又三つ合したるを三和四つ合したるを四和などといふ也.
倍・倍レ之	是はいづれも原の数を二つ寄せるをいふ．即一倍にすることなり.
三レ之	是も右と同く原の数を三つ寄せるをいふなり．此上幾数よせるも同じ意なり.
加・加入	是はいづれも今ある数に外の数を添入て一数にするをいふなり.
減・減去・以減・内減	是はいづれも引くことなり．但以減とは今求むる数を以て他の数の内を引くをいふ．内減とは今求むる数の内にて他の数を引くをいふなり.
差・較	是は何も多少両数ありて多き内少きを引きたる残りの数をいふ也.

冪	とは同品を掛合したる数の名なり．或は再自乗の品を掛合したるを再乗冪と云也．
約レ之	とは多数のものをたたみ縮むる義にして繁を省くの類をいふなり．
止餘・餘	是はいずれも多き数の内にて少き数を引たる残りをいふなり．
箇	とは数の結に用ゆる字なり．たとへば二箇三箇などいふも二つ三つと云に同じ．
段	とは数の累目をいふなり．たとへば某の数の五つ寄せたるを某の数五段と云類也．
積	とは平坪立坪などいふに同じ．すべて圍の内の坪数をいふなり．
零	とは一桁間のあくをいふなり．零〻は二桁あくこと也．○如レ此白圈を書も同じ．
適等	とは数の等く揃ひたるをいふなり．
不盡・有奇・不満	これはいずれも割残りの数をいふなり．割り尽ずといふことなり．
収レ之・去レ之	収之とは不尽を約みて假に一数とする也．去之とは其不尽を捨るをいふ也．
進退	進は上へすすみあげる也．退は下へしりぞきさげる也．二桁上るを二位進と云がごとし．
強弱	強は割残る数を捨たるをいふ．弱は割残る数を一つに収め入れたるをいふなり．
奇レ左・奇レ右・奇レ位・奇二甲位一・奇二乙位一	此類はいずれも術の中にて設け置たる数を重ねて呼出すに便ならん為に名を附るなり．畢竟符丁の如きもの也．

19 算法新書

法	算顆盤の左へ置数をいふ．
実	算顆盤の右へ置数をいふ．
商	割得たる数惑は開き得たる数をいふ．
帰	法一位(めやす一けた) に割をいふ．
除	法の位数(めやすのけたかず)多少に拘らず割をいふ．
帰除	合名なり上に同じ．
約	除と同じ．
因(よる)	法一位を掛るをいふ．
乗	法の位数多少に拘らず懸るをいふ．
相乗	上におなじ．
自乗	実と法と同数を相乗するをいふ．
自レ之	上に同じ．

再自乗	自乗して亦乗するなり.
三自乗	再自乗して亦乗す.
連乗	三件以上の数を相乗するをいふ.
遍乗	諸数へ遍く法数を乗するなり.
維乗	四所の数斜に相乗するなり.
互乗・斜乗	上に同じ.
累乗	逐て法数を乗するなり.
倍レ之	同数を加ふるなり.
三レ之	三を乗するなり.
二段	倍して成数也.
三段	三を乗して成数也.
加	増添るなり.
相併	二数相合なり.
和	相併て成数なり.
内減	本数の内を除き去るなり.
相減	少を以多を減するなり.
餘(あまり)	相減する残なり.
剰(あまり)	満餘なり.
差	多少不同の数なり.
較	相減ずる餘なり.
率	齊数なり.
冪	自乗して成数なり.
再乗冪	再自乗して成数なり.
巾・乂	冪の略なり.
積	相乗して成数なり.
原	初数なり.
還原	舊数(もとのすう)へ復なり数なり.
開方	累乗(かさねじやうず)して舊へ復をいふ.
隅	曲角なり.

截(きる)	割断なり.
周	外圍なり.
側円	円柱斜に截る所の截面をいふ.
変	改換るなり.
進(すすむ)	位を上に移す.
退(しりぞく)	位くらいを下に移す.
列	置なり.
上位	算顆盤の左をいふ.
下位	算顆盤の右をいふ.
首位	第一の位なり.
尾位	末の位なり.
零	空位(とびけた) なり.
省(はぶく)	諸数遍く等数に除(さる) なり亦略也.
去レ之	満るを除(ひく) なり.
缺(かけ)	端の缺なり球缺円缺の類.
不盡	除き(わり) 尽さるなり.
則	法なり.

20 算法身之加減

術	とはさし引割掛する手立の事なり.
実	とは常に算顆の右に置き，法を以てわりかけすべき数の事なり.
法	とは常に算顆の左に置き，実に見合割掛する数の事なり．俗に目安といふ.
商	とは法を以て実を割て得る数をいふなり．假令米三石七斗五升を三人に配分する時，米三石七斗五升を右に置き実とし，三人を左に立て法として実をわれは一人分米一石二斗五升宛となる．是を商と云．其業を術といふなり.
乗	とはかけることなり.
自乗	とは同数をかけ合す事なり．五と五をかけ合せ五五二十五となる類なり.
自レ之	とは自乗におなじ.
自因	とはこれも自乗と同事なり.
相乗	とは別々の数を掛合す事なり．三と八をかけ合三八二十四となる類なり.

相因	とは相乗におなじ．
因乗	とは是も相乗に同じ．古は用て今は用へす．
再自乗	とは同数二度掛合事也．五に五をかけ二十五となるに又五をかけ百二十五となる類なり．
再乗	とは再自乗に同じ．
三自乗	とは同数三度かけ合す事也．二と二をかけ四となる．是に又二をかけ八となる．是に又二をかけ十六となる類也．四自乗，五自乗といふも乗数度を累る事也．余はこれに倣ふべし．
除	とはわることなり．〇除レ之〇以除 各上に同じ術中文意を以て解へし．〇二除〇折半〇半之〇二歸 各二つにわることなり．
三除	とは三つに割事也．四除とは四つにわること也．余はこれに倣ふ．〇三因四歸（さんをかけしにてわる）とは三をかけ四にてわる事なり．〇五因三歸（ごいんさんき）とは五をかけ三にて割事也．余はこれに倣ふへし．
歸	此字は一桁ものにてわる事をいふ．〇因 この字は一桁ものをかける意に用ゆ．〇甲因乙 とは甲乙の数掛合せたるを云．此時は因の字意全く乗の字に仝し．桁数には拘らすとしるへし．
相乗	とは別々の数を掛合す事なり．三と八をかけ合三八二十四となる類なり．
甲因乙因丙	とは甲乙丙の三数各累ね乗たる数をいふ．余は是に倣へし．
加入	とは甲数に乙数を合せ入る事なり．〇加 上に同し．
併レ之〇相併〇併置	各加入と同じ事なれども此三名は甲乙丙の三数或は子丑寅卯辰の五数なる累（かさ）ね合す事に用るなり．余はこれに倣ふへし．
減	とは甲数より乙数を引くなり．〇去（さる）〇減去（げんきよ） 各上に仝し．〇相減 とは多数の内少数を引事なれとも亦多を以て少を引き反復して負数に変る事もあるなり．
内減	とは甲内乙を引く事也．〇以減 とは乙数を以て甲数の内を引事なり．
和	とは甲乙の数を合せたるをいふ．〇二和 とは上におなし．〇三和 とは甲乙丙の三数を合せたるをいふ．
四和	とは甲乙丙丁の四数を合せたるをいふ．五和以上これに倣ふへし．
倍（ぼいす）	とは一を倍して二，三を倍して六とする事．倍の字は乗ずるの意なり．三倍とは三を乗し，四倍とは四を乗し五倍とは五を乗す．六倍以上これにならふ．
甲一段乙二段	とは甲数一つ乙数二つということなり．〇三段〇四段〇五段〇六段 の類いは皆それゝゝに段数を累（かさ）ねることなり．
甲円一箇乙円二箇	とは甲円一つ乙円二つをいふ事なり．〇三箇〇四箇 とは皆物の数の事也．個の字箇の字に同じ．又个の字は古字也といふ．

差(たがひ)	とは多数より少数を引きのこりし数をいふ．較の字差の字と同意なりといふ．
餘	とは多数より少数を引きあまりの数をいふ．余は畧字なり．
止餘	とは餘と同じ事なり．古は止の字を冠に用ゆ．今はこれを省きて用えす．
不盡	とは割り残りたる数をいふ．
有奇	とは不尽あるをいふ事なり．
冪	とは同数を掛合せたるをいふ．再乗冪とは二度かけ合たる数をいふ．三乗冪とは三度かけ合せたる数をいふ．自乗して得たる数の事也．四乗冪以上皆これに倣ふへし．冪は古字なり．㡡・巾この二字は畧字なり．
積	とは俗にいふ坪のこと也．一寸四方を寸積，一分四方を分積，一尺四方を尺積，一間四方を間積といふ．平坪は平積，立坪は立積といふ．又曰一度掛合たるを平積，二度掛合せたるを立積，三度かけ合せたるを三乗積といふ．四乗積以上咸これに倣ふ．
歩	とは是も俗に坪のことなり．
奇・偶	とは奇は半数，偶は丁数のことなり．
零	とは算顆の桁間のあき間をいふ．又曰令は畧字也．亦〇この印を畧し用ゆるなり．
単	とは一万令令令一を一万単といふ．
進	とは一桁左に上る事也．二位進は二桁左に上る事なり．
退	とは一桁右へ下る事なり．二位退は二桁右へ下ることなり．
互減(たがへにひく)	とは左右の数の内多より少を互ひに引き去り，左右に算数を得て止む．又互約ともいふなり．
累減(かさねひて)	とは多数より少数をいく度も引去る事也．
累加(かさねてくわへる)	とはいく度も加へいれる事なり．
累乗(かさねかける)	とは幾度も掛けかさぬることなり．
累除(かさねわる)	とは幾度も割りかさぬる事なり．
約(つづむる)	とは以レ左約レ右，亦は以二等数一約左右天三数一の類いなり．一体不尽なきものを割るを約すといふ．
遍乗(あまねくじやふす)	とは諸数へあまねく掛る事なり．
連乗(つらねかける)	とは三件以上の数をかけ合す事也．
斜乗(ななめにかける)	とは四所の数を三所宛左右斜に掛合す事なり．
維乗	とは上に同じ．

満(まん)	とは甲数乙数より多き時は甲数乙数に満るといふ.
盈(えい)	とは上に同じ.
剰(あまる)	是も上に同じ.
満去レ之	とは甲数より乙数多きときは甲数より乙数を幾度も引さるといふ事なり.
歉〇朒	此二字はいづれもたらぬ事也.
不満(みてづ)	とは甲数より乙数は常にたらぬといふ事也.
布レ算	とは二色三色四色の数を別々にならべおく事. 幾色にて是に同じ.
以上(もつてかみ)	とは是より上といふ事也. 以下(もつてしも) とは是より下といふ事也.
首位	とは始の位なり. 尾位とは末の位也.
原数	とは初数の事なり.
括	とは假如甲乙数を合て甲乙和とする事也.
還源(もとへかへす)	とは甲乙和と括りし数を甲乙とわけてもとへかひす事也.
省	とは実法に等数有ものは是をぬきさる事なり.
率	とは俗にいふ定法になる数の事也.
今有	とは今有二何々一と題の発語に用ゆる也. 假如假令ともに同じ事なり.
隔レ斜	とは斜の筋をへたて物をいれるとき題中に用ゆる文字なり.
容	とは方円直鈎股菱三斜三角四角なとの物をいれるとき題中に用ゆる文字也.
若干	とは題辞の数仮に何ほどといふ事にて題中用ゆる文字なり. 辞・辭(ことは・ことは) 二字同じ.
整数	とは不尽なき数の事なり.
極数	とは至て多き数又至て少き数をいふなり.
欲レ使ニレ積至多一	とは至て多積を求る事也. 少からしめんとは少積を求る事也.
置	とは除乗するに其時入用の数を算顆におく事也. 列するも同事なり.
合レ問	とは答の数を得て術の終りに結び用ゆる文字なり.

21 算法稽古図會大成　28 算法稽古宝

帰除	二字ともに割事なり. 帰は一けた, 除は二けた以上.
因乗	二字ともにかける事に用ゆるなり.
令・零・下	三字ともにそろばんのつぶをとんで数無を云. 〇をしるすにおなじ.

併(へい)	これはあはすといふことなり.
折半(せつはん)	二つに割(わる)をいふなり.

23 算学提要

上(うえ)	左の方なり.
下(した)	右の方なり.
法(ほう)	左の数なり. 又目安とも
実(じつ)	右の数なり.
商(しやう)	割あらわしたる数也.
帰(き)	法一けたにて割也.
加入(かにう)	ましそゆるなり. 又加へるともいふ.
累加(るいか)	いく度もかさねて加へるなり.
減去(げんきよ)	ひく事なり. 又減しるとも云
累減(るいげん)	いく度もかさねて引ことなり.
以減レ之(もつてげんず)	少きを以て多きを引ことなり.
内減之	多きうちにて少きを引ことなり.
互減レ之(ごげん)	たがひに引あふことなり.
差(さ)	多少相減したるのこりの数なり. 又較共いふ.
乗(じやう)	かける事なり. 因するともいふ.
相乗(あいじやう)	かけ合事なり.
自乗(じじやう)	おなじ数をかけ合すなり.
再自乗(さいじじやう)	同数二度掛合す也. 畧して再乗とも.
三自乗(さんじじやう)	おなじ数を三たびかけ合すなり.
冪(べき)	同数を懸合したる数なり. 又巾とも.
和(くはす)	多少の数を合す也. 相和とも.
三和	三つ合したる数なり. 四和は四つ合したる也.
相併(あいならべる)	多少の数を合す也. 相和ともいふ.
倍之(ばいすこれを)	二を掛るなり.
二レ之(ふたたびす)	二をかける也. 三之は三をかけるなり.

二段	二つ合したる数也．三段は三つ合したる也
折半（せつはん）	二つ割ことなり．半之ともいふ．
除（ちよ）	割事なり．
二除（にちよ）	二つ割事なり．三除とは三つにわることなり．
累除之（るいちよ）	いく度もわる事なり．累乗はいく度も掛る也．
率（りつ）	定法なり．
箇（こ）	一箇は一つ，二箇は二つ也．
積（せき）	たとえば一寸四方は寸積，一間四方は間積なり．
歩（ふ）	上におなじ．
列（れつす）	元ある数別におくなり．
寄位	別に置くなり．甲位乙位などいふ
止余（しよ）	減じたる余り也．
変（へんじ）	其数を違へざるやうに変しかへるなり．
進（すゝむ）	一位進は一けた上へあぐるなり．
退	一位退は一けた下へ置かへるなり．
約之	たとへば五に約するは五にわるなり．
若干（じやくかん）	いまだ数を定めず意に随ふて定むべき也．
不尽（ふじん）	割残りたる数なり．又割きれなき数も云．
為（して）	先かりに夫にする也．
幾何（いくはく）	いかほどなり．
零（れい）	一けた飛ふなり．
単（たん）	たとへば十令万令上十万単という．　(大成算経〈單〉参照)
合レ問（かつすとい）	こたへのおわりにおくむすび字也．

24 算学速成

実（じつ）	かけわりすべて右のかずをいふ．
法（ほう）	同く左の数をいふ．
除（ぢよ）	わるなり．
乗（じやう）	かけるなり．

帰(き)	法一けたにてわるをいふ.
因(いん)	法壱けたをかけるをいふ.
相乗(さうじやう)	彼と是とをかけるをいふ．乗と同じ.
自乗(じじやう)	実と法と同じ数をかけるをいふ.
自レ之(じすこれを)	上に同じ.
再自乗(さいじじやう)	同じ数を二度かけ合すなり.
半レ之(なかばすこれを)	二つにわる也.
倍レ之(ばひす)	二をかけるなり.
二之(ふたゝびす)	上に同じ.
二段(にだん)	倍して成数也.
三之(みたびす)	三をかけるなり.
三段(さんだん)	みたびしてなる数也.
加(か)	入るなり.
相併(あいならぶ)	彼と是と合する也.
和(くわ)	相併て成数也.
減(げん)	引なり.
内減(うちげんず)	是の内彼の数を引なり.
以減(もつてげんず)	彼の内是の数を以て引也.
差(さ)	彼と是を引合たる残りを云.
余(あまり)	上に同じ.
巾(べき)	自乗してなる数也.
再乗巾(さいじやうべき)	再乗してなる数也.
積(せき)	相乗してなる数也.
商(しやう)	割得たる数，或開き得たる数也.
率(りつ)	定法なり.
列(れつす)	置なり.
二約之(にやくす)	二つにわるなり．三約も是に等し.
二除(にじよ)	上に同じ.
開方(かいほう)	累乗したる数をもとの方になをす也.

个(こ)	一个は一つ，二个は二つ也.
原(げん)	はじめなり.
上(じょう)	左の方なり.
下(か)	右の方なり.
進(しん)	位を上に移す也.
退(たい)	位を下に移す也.
不尽(ふじん)	わり尽ざる数也.
有奇(ゆうき)	上に同じ.
零(れい)	一けたとぶをいふ.
単(たん)	三つとぶをいふ.

25 算法智恵袋

除(ぢよ)	とはわる事なり.
帰(き)	と云もわる事なり．ただし一位のときかくいふなり.
実(じつ)	とはわるべきかすのみぎにあるをいふ.
商(しやう)	とはわりえたるかずをいふ.
法(ほう)	とはひだりにあるかずをいふ.
目安(めやす)	と云も法と同じことなり.
因(いん)	とはかけることなり.
乗(じやう)	と云もかけることなり.
相乗(さうじやう)	とはかけあはすことなり.
自乗(じじやう)	とは同じかずをかけあはすことなり.
自因(じゐん)	と云も自乗(じじやう)とおなじ.
自レ之(これをじす)	と云も 自因(じゐん)とおなじ.
再自レ之(ふたたびこれをじす)	とは同じかずを二度かけあわすことなり.
再自乗(さいじじやう)	といふも上と同じことなり.
再自因(さいじいん)	といふも上と同じことなり.
折半(せつはん)	とは二つにわることなり.
和(わ)	とはあはすことなり.

相併(あいならぶ)	と云もあはすことなり.
加入(かにう)	とはくはふることなり.
積(せき)	とはかけえたるかずをいふなり.
冪(べき)	とは同じかずをかけえたるをいふ.
零(れい)	とは一けたとぶをいふ.
不尽(ふじん)	とはわりのこりたるかずをいふなり.

26 眞元算法

法(ほう)	かけわりとも見合す左のかずなり.
目安(めやす)	右に同じ.
実(じつ)	法を以てかけわりする右のかずなり.
商(しやう)	わりあらはしたるかずなり.
帰(き)	わることなり.
除(ぢよ)(のぞく)	右に同じ. 又帰除ともいふなり.
除之	右におなじ.
因(いん)	かけることなり.
乗(じやう)	右におなじ.
乗之(じやうこれに)	右におなじ.
相乗(あいじやう)	右におなじ.
相因(あいいん)	右におなじ.
自乗(じじやう)し之	同じかずをかけ合すなり.
自之(じしてこれに)	右におなじ
冪(べき)	同じかずを掛合したるかずなり.
巾(べき)	右の異字.
再自乗(さいじじやう)	同数を二度かけ合すなり.
再乗巾(さいじやうべき)	右同じ.
三自乗	同数を三度かけ合したるなり.
三乗冪	右に同じ.
折半(せつぱん)	二つわりなり.

半レ之	右に同じ.
二除之	右に同じ.
三除之	三つ割也．四つ割は四除之なり.
倍(ばいす)レ之(これに)	二をかける也．三をかけるは三倍之するなり.
相和(あいくは)	たとへば長平合すは長平相和なり.
相併(あいならぶ)	右におなじ．又和式併とも云.
加入(かにう)	右におなじ.
累加(るいか)	元のかずへ今いく度もくわへる也.
減去(げんきよ)	多き内少きかずを引なり.
減之(げんずこれを)	右におなじ.
較(かう)(たがひ)	譬は長の内平を引残は長平の較なり.
差(さ)(たがひ)	右におなじ.
止餘(しよ)	引のこりのかずなり.
還原(くわんげん)	初めの数にかへるなり.
原数(げんすう)	初におくかずなり.
零(れい)	一けたとぶなり.
令(れい)	右の畧字
単(たん)	譬は一万〇〇一を一万単といふなり.
不盡(ふじん)	除残りのかずなり.
不満(ふまん)	右におなじ.
有奇(ゆうき)	右におなじ.
余(よ)(あまり)	右におなじ.
為(して)	先かりに夫と定るかずなり.
内減(うちげんず)	多きうち少き数を引なり.
以減	少きをもつて多きを引なり.
累減(るい)	いく度も引ことなり.
互減(ご)	たがひに引あふなり.
率(りつ)	定法なり.
箇(こ)	一箇は一つ也，二箇は二つ也.

積(せき)	一寸四方は寸積なり．一尺四方は尺積なり．
歩(ふ)	右におなじ．
列(れつす)	元あるかずをいままたをくなり．
寄位(よするゐ)	別に置くなり．甲位乙位なぞいふ
約(やくす)レ之	五約するは五にわるなり．
若干(じやくかん)	いまだ数の定らざる也．
幾何(いくはく)	いかほどなり．
上(かみ)	左の方．
下(しも)	右の方．
変(へんす)	其数を改めかゆるなり
進(すゝむ)	一位進は一けたうへにあぐるなり．
退(しりぞく)	一位退は一けた下へ下るなり．
名甲(なづくかう)	後に用ゆるためにかりに名つけ置也．
収一(おさむいちに)	はしたのかずを一とおさむるなり．
逐(おふ)	逐減は累減なり．逐加は累加なり．
下分位は棄之	壱より下はすてるなり．
合(がつすと)レ問(いに)	術の末に結びとめる文字なり．

27 **摘要算法大全**　　37 **算法便覧**

実(じつ)	かけわりすべき右(みぎ)のかずをいふ．
法(ほう)	見合(みあは)すべき左(ひだり)のかずをいふ．
上(かみ)	左(ひだり)のかたなり．
下(しも)	右(みぎ)のかたなり．
変(へんず)	其数(そのかず)を改(あらため)かへる也．
進(すゝむ)	一位(くらい)すゝむは一(ひと)けた上(かみ)へ置直(おきなほ)すなり．
退(しりぞく)	一位(くらい)しりぞくは一けた下(しも)へ置直(おきなほ)す也．
互減(ごげん)	たがひに引合(ひきあ)ふ也．
原(げん)	はじめのかず也．
還原(くわんげん)	はじめのかずにかへるなり．

加入	ましそゆるなり.
乗	かけるなり.
因	右におなじ.
相乗	かけ合す事なり.
自乗	同数をかけ合することなり.
再乗	同数を二度かけ合すること也.
三自乗	おなじ数を三たびかけ合すなり.
冪	同数をかけ合したるかずなり.
帰	わる事也. 除ともいふ.
減	引ことなり.
減去	多少引合ふ也.
和	多少合したるかず也. 相併ともいふ.
差	多少相減じたる残なり. 又較ともいふ.
累減	いくたびもいくたびも引事也.
累加	いくたびもいくたびも加る也.
累乗	いくたびもいくたびもかけることなり.
累除	いくたびもいくたびもわるなり.
倍レ之	二をかける也.
二レ之	右に同じ. 三レ之とは三をかけるなり.
二段	右におなじ.
半レ之	二つにわる事也. 折半ともいふ.
三除レ之	三つにわること也. 四除は四つにわる也.
商	割あらはす数也.
率	定法なり.
箇	一箇はひとつなり, 二箇はふたつなり.
積	たとへば一寸四方は寸積也. 一尺四方は尺積也.
歩	右におなじ.
列	元あるかずを今又をくなり.
寄レ位	別に置くなり. 甲位乙位などといふ也.

止餘	減じあまり也.
約レ之	たとへば五に約するは五にわる也.
若干	いまだかずのさだまらざる也.
幾何	いかほどなり.
不尽	割殘の数なり.
有奇	右におなじ.
零	一桁とぶなり.
単	たとへば十零万零々々一は十万単という也.
為	先かりに夫にする也.
合レ問	術のすへにむすび止る字なり.

29 算法図解大全

法	右の方におきてかけわりに見合す数なり．目安ともいふ.
実	右の方におく銀高石高その外かけわりすべき数なり.
商	法をもつて実の数をわりてあらはれたる数をいふ.
帰除	法二けた以上にてわるをいふ.
帰	法一けたをもつて割をいふ.
因	法一けたにてかけるをいふ也.
相乗	法二けた以上にてかけるをいふ．自乗・相因・自因といふも同じ事なり.
再自因	二度かけるをいふ．再自乗といふも同じ事なり.
冪	かけ合たる数をいふ．冪・巾と書もおなじ事なり.
和	幾数も合すをいふ．相併も同じ.
減去	引てへらすをいふ.
止残	止余といふも同じ．引て残るをいふ.
折半	二つに割事也．又半レ之といふも同じ.
不尽	割のこりし数をいふ.

30 算法開蘊

法	掛割共に見合する数を云.

実	法にて割べき数をいふ.
商	割得たる数をいふ.
帰	法一桁にて割をいふ.
除	法の桁数の多少に拘らず割をいふ.
約	除と同じ.
因	法一桁を掛るを云.
乗	法の桁数多少に拘らず掛るを云.
相乗	上に同じ.
自乗	同数掛合事をいふ.
自之	上に同じ
再自乗	同数二度掛合るを云. 即自乗而又乗する也.
三自乗	同数三度掛合るを云.
連乗	三件以上相乗するをいふ.
維乗	四品の数斜に相乗するを云.
累乗	逐て乗するをいふ.
累除	逐て除也.
累約	上に同じ.
倍之	同数を加へる也.
三之	三を乗する也.
一箇	一つ也・二箇二つ也・三箇三つ也.
二段	二つ也・三段三つ也.
一次	一度・二次二度・ 三次三度也
相併	相合す事を云.
和	相合す事を云.
差	多少不同数也. 即相減余数也.
以減	此数を以て彼数の内を引也.
冪	自乗数也.
再乗冪	再自乗数也.
三乗冪	三自乗数也.

積	自乗相乗或連乗成数を云.
上位	算顆盤の左を云.
下位	算顆盤の右を云.
進	上へ移すをいふ.
退	下へ移すをいふ.
首位	其條にて最上を云.
尾位	其條にて最下を云.
不尽	除尽ざるを云.
有奇	上に同じ.
無奇零	一の位を下らず. 即不尽なきを云.

31 多門直入 **算法重宝記**　32 秘術改撰 **算学重宝記** (嘉永 4 年版)

帰除(きじよ)	二字ともに割事(わること)也. 帰(き)は一けた, 除(じよ)は二けた以上.
因乗(いんじやう)	二字(じ)ともに懸(かけ)ることにもちゆるなり.
令(れい)・零(れい)・下(か)	三字(じ)ともにそろばんのつぶをとんでかづなきをいふなり. ○をしるすにおなじ.
併(へい)	あはすといふ事(こと)也.
折半(せつはん)	二つに割(わる)をいふ也.
積(せき)	かけえたるかづをいふなり.
不尽(ふじん)	わりのこりたるかづをいふなり.

33 **啓迪算法指南大成**

法(はう)	割掛(わりかけ)ともに見合す数なり.
実(じつ)	法を以て割掛すべき数なり.
商(しやう)	法を以て実を割尽して得たる数なり.
除(じよ)	割事をいう. 或は帰除す又除之ともいうなり.
乗(じやう)	掛る事をいう. 或は相乗じ相因ともいうなり.
自乗(じじやう)	同数のものを掛合するをいう. 又自之ともいうなり.
再自乗	同じ数を二度掛る事をいうなり.
三自乗	おなじく三度掛るをいう. 四自乗以上逐てかくのごとし.

折半	二つに割事なり．又半之ともいうなり．
和	彼と是とを合せる数なり．幾品にておなじ又相併ともいうなり．
加入	彼を置，是を加へる事なり．加へたる数をいう時は彼と是の和という．
減	彼を置，内是を引く事なり．
倍之	原ある数を二つ合する事なり．
三之	おなじく三つ合する事なり．逐てかくの如し．
冪	同数を掛合せたる数をいう．又略して冪・巾とも書なり．
積	彼と是を掛合せたる数をいう．又略して責とも書なり．
零	一位間のあく事なり．又略して令とも書く．譬ば壱匁壱厘，或は壱石壱升というが如し．

34 算学備要大成

法	珠子盤の上に置数と云．俗にいふ目安なり．
実	珠子盤の下に置数と云．法を以て割かけする数なり．
商	わり得たる数又開き得たる数をいふなり．
帰	法一桁にてわる事也．
因(よる)	法一桁にてかけるをいふ．
除(のぞく)	法の桁数多少に拘はらずわるをいふ．
乗(のる)	法のけた数多少にかゝはらずかけるをいふ．
帰除	法のけた数にかゝはらずわることなり．
約	除に同じ
如法而一	といふも除に同じ．
自乗	実法同数かけ合すことなり．
自レ之	上におなじ
再自乗	自乗したる上へ亦乗ることなり
三自乗	再自乗したる上へまたかける事也．
連乗	三件以上の数を相のるをいふ．
遍乗	諸数へあまねく法数をかけるをいふ．
維乗	四品の数斜に相乗るをいふ．
互乗	同上．

斜乗	同上.
累乗	逐て法数をかけることなり.
折半	二つにわる事なり.
折レ之	同上.
半レ之	同上.
和	幾数も合す事なり.
相併	同上.
倍之	同数を加ふるなり.
二レ之	同上.
三レ之	三をかくることなり.
加	増添るなり
加入	同上.
減	引ことなり.
内減	本の数の内を引去るなり.
相減	多内すくなきを引去る也.
止餘	多内少を引残りをいふ.
餘	同じ事也.
剰(あまり)	満餘り也.
差(たがひ)	多少不同の数をいふ.
較	同上.
二段	倍して成数也.
三段	三をかけて成数なり.
冪	同数をかけ合せたる数なり.
積	多少かけ合せたる数なり.
零	一桁間のあくるなり.
単	一万零零零一を一万単一と書なり.
不尽	除残る数なり.
不満	同上.
有奇	同上.
棄レ之	不尽を捨るなり.
去レ之	同上.

収之	不尽を畳て一数とするをいふ.
整之	亦上に同じ.
箇	一个二個数の結びに用ゆる也.
列之	おく事也.
置	も亦同じ.
率	定法なり. 又斉き数なり.
進	位を上に移すなり.
退	位を下にうつすなり.
還源	旧数へ復る也.
変	改め換るなり
強	割残る数をすてたるをいふ.
弱	割残る数を一つに収入たるをいふ.

35 袖珍算法

実	とは割算又は掛算にても珠盤の右の方に置数をいふ也.
法	とは同左の法に置数をいふ. 又目安共いふ也.
商	とは法にて実を割或は平方立方等に開て得たる数をいふ也.
除	とは割事也. 但法の数一位成は帰ともいふ也.
乗	とは掛事也. 但法の数一位なるは因ともいふ也.
相乗	とはかけ合す事也. 又同じ数を掛合すは自乗共いふ. 或は畧して自するともいふ. 二度掛るを再乗といひ, 三度かくるは三乗といふ. 今は二度以上のものも通じて冪といふ也. 一乗冪, 再乗冪, 三乗冪などのごとし.
加	はくわふる事也.
減	は引事也
折半	は二つにわる也. 又は半にするともいふ也
和	とは併する数也.
較 又差とかく	といふは多き内少を引たる残也.
零 又令とかく	とは珠盤の位のとぶ事也. 零零とは二位とぶ也.
不尽	とは除法にても又開方法(ひらきざん) にても位数永く尽ぬほこりをいふ.

36 算法早まなび

実(じつ)	かけわりともすべて右に置数をいふ.
法(ほふ)	同く左に置かずをいふ. 目安の事也.
列(れつす)	何にてもかけわりすべきかずをそろばんの上におくこと也. 置ともいふ.
帰(き)	一けたの法にてわるをいふ也.
除(じよ)	二けた以上の法にてわるをいふ.
因(いん)	一けたの法をかけるをいふ.
乗(じよう)	二けた以上の法をかけるをいふ.
相乗(さうじよう)	かれとこれとをかけるをいふ.
商(しやう)	わりたる数又開きたる数を云.
自乗(じじやう)	実と法と同じ数をかけ合するをいふ. 自レ之(これをじす)と云もおなじ.
再自乗(さいじじやう)	同じ数を二度かけ合すを云. 再自レ之(これをふたゝびじす)といふもおなじ.
半レ之(これをはんす)	二つにわることなり. 折半(せつはん)といふもおなじ.
倍レ之(これをばいす)	二をかける也. 二レ之(これをふたゝびす)ともいふ.
三レ之(これをみたひす)	三をかけるをいふ.
二段(にだん)	倍してなる数をいふ也.
三段(さんだん)	みたびしてなる数をいふ.
加(くわふ)	入るゝこと也. 加入(かにふ)ともいふ.
減(げんす)	引くこと也. 減去(げんきよ)ともいふ.
内減(うちげんす)	是の内かれの数を引く也.
以減(もつてげんす)	かれの内是の数を引く也.
相併(あいならべ)	かれとこれを合すをいふ.
和(くは)	相併べてなる数也. 三和(さんくは)三つ合すをいふ.
差(さ)	かれとこれと引合たるのこりをいふ也. 餘(あまり)といふもおなじ. 止餘(しよ)ともいふ.
冪(べき)	自乗してなる数也. 略しては巾と書く.
再乗冪(さいじようべき)	再自乗してなる数也.
積(せき)	相乗してなる数をいふ. つぼかずのこと也.
率(りつ)	定法のこと也. 円率, 斜率などゝいふ.
約レ之(これをやくす)	多き数をつゞむることなり.
二約(にやく)	とは二つにわるを云. 三約は三つにわる也.
箇(か)	名のる　　数に用ゆ. 一箇は一つ, 二箇は二つ也.

原(げん)	はじめなり．原数などゝいふ．
適等(てきとう)	彼と是と数のひとしくなる也．
開方(かいはう)	累かけたる数を元の方になおす也．
進(すゝむ)	位を上へうつす也．二位進は二けた上へうつす也．
退(しりぞく)	位を下へうつす也．一位退は一けた下へうつす也．
寄(かふるによる)二甲一位	術のうちにて設け置たる数をかさねてよび出すに便ならんため付る品の名にして十干十二支にいろゝゝあり．為(かふとす)レ甲共いふ．寄(ひだりによる)レ左と云も同じ．
只云(たゞいふ)	問の数をくゝりていはんための詞也．又云(またいふ)，別云(べつにいふ)みな同じ．
零(れい)	一けたとぶをいふ．〇を書くも同じ．
単(たん)	三つとぶ也．一万〇〇〇一を一万単一といふ也．
強(がう)	わりのこりたる数をすてたるをいふ．
弱(じやく)	わりのこりたる数を一として入たるをいふ．
収(これをおさむ)レ之	不尽をおさめて一とする也．
去(これをさる)レ之	不尽をすてさるをいふ也．
不尽(ふじん)	わりつくさゞるかずをいふなり．有奇(いうき)といふも同じ．

37 算法統宗

乗除用字釋

以者用也．置者列也．為者數未定也．得者數已成也．呼者呼喚其數也．命者言也．首者第一位也．尾者末位也．身者本位也．率者齊數也．實者所問之物也．法者所求之價也．乗之者九字相生之數也．除之者謂九歸歸除商除之類．

法	様数也	實	本数也
因	法之單位者又由也	歸	入巳之數也
加	増添也	減	餘少也
乗	法之多位者	歸	先歸後除合名也
除	減少也	積	乗成之數也
乗	法實合變數也	如	九數用此下一位也
身	本位也	則	法也
左	上邊大位也	右	下邊小位也
縦	直長也	横	廣闊也
廣	横闊也	闊	横闊也

直	長也	面	方面也
高	立起也	深	凹下也
倍	加上本数也	併	二数相合
截	割断也	分	撥開也
原	初数也	差	多少不動数也
通	倉同其数	變	改換其數
約	量度	中	算盤之中
進	進上前一位	逢	隅有數而言逢
上	脊梁之上又位之左	下	脊梁之下又位之右
挨	随身變數也	退	移下後一位
勾	闊也	股	長也
斜	兩隅相去又不正也	弦	勾股斜曰弦弧矢亦有弦
隅	曲角也	長	直也
周	外圓也	較	相減除也
上	脊梁之上又位之左	廉	方直也
方	四面同數	徑	周中之弦
脊	盤中横梁隔木	列位	各置位次
折半	減去一半	還原	復舊數也
商除	心與意商量除之	相乗	長闊或銀貨算
自乗	法實數同相乗	再乗	自乗之而又乗
遍乗	先以一法遍乗諸數	商總	合用商開之法于盤中
開方	即自乗還原也	開立	即自乗再乗之還原
中實	即商總也	併率	如一二三四五併得十五數也
得令	斤兩貫箇石等類也	得術	乃法首位每下該得之名
互乗	如四處數目上下斜角相乗	相減	如二數以少減多餘曰較
合得	算數定奪	維乗	四處顛倒相乗
若干	一為數始十為數終未算難定	幾何	與若干相同